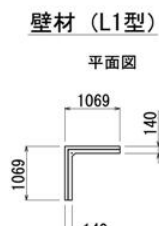
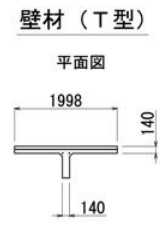
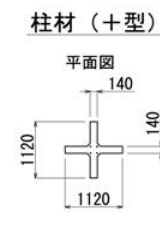

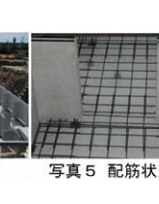

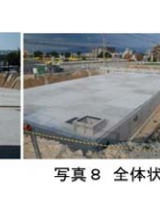








NETIS登録番号		技術名称		アクアポンドS型	
QS-100001-A		副題		プレキャスト式雨水地下一時貯留施設	
分類1	共通工	排水構造物	地下貯水槽	キーワード: 安全・安心、コスト削減・生産性の向上	
分類2	河川維持	その他			
開発目標		省人化、省力化、経済性の向上			
技術の位置付け	<input type="checkbox"/> 推奨技術 <input type="checkbox"/> 準推奨技術 <input type="checkbox"/> 活用促進技術 <input type="checkbox"/> 設計比較対象技術 <input type="checkbox"/> 少実績優良技術				
特許	<input type="checkbox"/> 有り (特許番号:) <input checked="" type="checkbox"/> なし				
技術賞、審査証明等	<input type="checkbox"/> ものづくり日本大賞 <input type="checkbox"/> 国土技術開発賞 <input type="checkbox"/> 学会賞 <input type="checkbox"/> 建設技術審査証明				
問合せ先	会社名	株式会社 ヤマウ		TEL	092-872-3352
	住所	福岡県福岡市早良区東入部5丁目15-7		E-MAIL	m-endo@yamau.co.jp
	担当者	遠藤昌克			
実績件数	国土交通省		その他の公共機関		民間等
H26.8.31現在	0件		8件		18件
技術概要: (300字以内)					
<p>河川の増水時に必要以上に河川流量が増大しないよう、雨水を一時的に貯留することを目的とした技術です。アクアポンドS型は、壁材・柱材・頂版スラブの部材と現場打ちコンクリート底版からなります。本技術の開発にあたっては、各々の部材の軽量化を図り据付作業を容易にすることにより、工期の短縮、経済性の向上を目指しました。</p> <p>従来の技術は躯体を現場打ちコンクリートで築造する工法や、ボックスカルバート形状のブロックを組み合わせた工法により対応していました。</p> <p>雨水の流出抑制を必要とする公園や学校のグラウンド、その他公共施設の駐車場等に適用できます。</p>					
「どこに新規性があるのか」					
<p>①従来の既存ボックスカルバートを敷設する方法は、高さ及び方向調整作業の際にもクレーンにより吊り上げた状態にしておく必要があり、一連の作業が終わるまで解放できませんでした。また、基礎コンクリート面の不陸によってはさらに時間がかかるものでした。</p> <p>②既存ボックスカルバートを連続して設置すると側壁に開口を設ける必要がありますが、製造時の効率が低下するのでコストが増大する要因となります。</p> <p>③側壁面に垂直な小口面の開口は既存ボックスカルバートの据え付け終了後に、現場打ちコンクリートによる妻壁を設けますが、別途型枠が必要となるなど工期やコストに影響する要因となります。</p>					
「期待される効果」					
<p>①本技術は、壁材・柱材の底面に3、4点の高さ調整用金具を用いるので基礎(均し)コンクリートに接する部分が小さく、部材を据え付けた後クレーンを解放しても部材の微調整ができるため据え付けの効率が向上します。また、部材と基礎は隙間があるため雨天後の水はけが良く次の工程がスムーズに行えます。</p> <p>②柱材および壁材は専用部材としておりますので、所定の間隔で配置すれば既存ボックスカルバートの敷設による場合に比べ工期の短縮及びコストの削減が図れます。</p>					
「適用条件」					
<p>①自然条件</p> <ol style="list-style-type: none"> 雨天後など地盤がゆるんだ場所での作業は行わないで下さい。 強風時には作業を中止し、仮置きされた壁材は強風による転倒の防止処置を施して下さい。 <p>②現場条件</p> <ol style="list-style-type: none"> プレキャストブロックの仮置きには据付数量で1.0日分(約100m²以上)のスペースが必要です。 搬入、吊り降ろしは標準で25t以上の能力を有するクレーンの作業スペース(約60m²以上)を検討する必要があります。 <p>③技術提供可能地域</p> <p>九州全域</p>					
「適用範囲」					
<p>①適用可能な範囲</p> <ol style="list-style-type: none"> 内空高さが、1.0mから2.0mで収まる場合に使用できます。 土被りは、0.1mから1.0mです。 頂版スラブは、上載荷重q=10kNでは0.14m厚、活荷重T-25では0.18m厚を使用します。 貯留槽の平面形状が階段状の場合にも対応できます。 <p>②特に効果の高い適用範囲</p> <p>学校のグラウンド等施工期間をできるだけ短縮したい場所</p> <p>③適用できない範囲</p> <p>標準条件とは影響が異なる周囲が高い土羽付きの敷地、土被りが1.0mを越える場合及び軟弱地盤</p>					
「写真・図等」					
 壁材 (L1型) 正面図		 壁材 (T型) 正面図		 柱材 (+型) 正面図	
					
					
       					
<p>写真1 据付(壁材) 写真2 連結作業 写真3 据付(柱材) 写真4 据付終了 写真5 配筋状況 写真6 コンクリート 写真7 スラブ 写真8 全体状況</p>					